

大沼のおいたち

八幡平への玄関口である大沼は、海拔 944 メートルに位置し、直径はほぼ 200 メートルです。この沼がどのようにしてできたのかは明らかになっていません。

一部の人々は、このほぼ円形の沼は、八幡沼とガマ沼をはじめとする多くの八幡平地域の湖沼と同様に、火山活動によってできたと考えています。他方で、沼が断層線に近接していることに注目し、大沼は断層周辺の窪地を水が満たすことによってできる断層湖であると考え人もいます。(図 1)

長年の間に、大沼は堆積物の増加と周囲の湿地の侵食によって小さくなり、徐々に変化してきました。(図 2)

沼を囲む探勝路沿いには丈の高いヨシが茂り、夏にはコウホネの群生が水面に花を咲かせます。ブナとアオモリトドマツの森をはじめとした様々な植生、そしてそこにくらす昆虫や鳥などの野生生物が観察できます。

ゆっくり時間をかけて大沼地域を散策してください。大沼地域は、湿原の生態系が時とともにどのように変化したかを示しています。